



「さくら会」よりみな様へ

お元気でいらっしゃいますか。今年は戦後70年を迎え、何かと賑やかな報道がなされましたが、「社会保険下関厚生病院」も開院して65周年を迎えたのでした。昭和25年2月1日に、健康保険証を遠慮なく使うことができる病院として発足し、その役割を十分に果たしました。現在は健康管理センターや介護老人保健施設を併設し、多くの方々が利用されるようになってきました。病院の名前も「下関医療センター」に変わりました。この間多くの職員の方々の努力により、社会の要請に応える病院としての役割を果たし、現在に至っております。平成20年4月、退職者有志で「思い出を語る会」を発足しました。多くの方々に出席して頂き、楽しい時間を過ごし、今年は「思い出を語る会」も8回を終えました。そこで、病院の名前も変わりましたので、「会の名称」も新しく考えてはとの意見が出ました。意見のなかに昔は桜が美しい病院だったとも、また、桜山の名称は近くの小学校や神社にもあり、親しみやすいのでこの会の名称も「さくら会」（会長：沖田極前病院長）としました。退職された方はどなたでも歓迎いたします、どうぞ入会されますようお願いしております。



文責 さくら会副会長 岡村八重子（元総婦長）

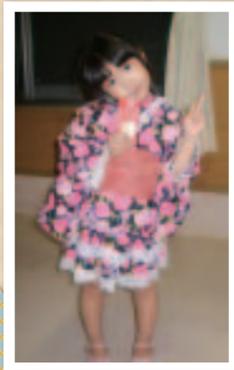


今年の総会は、平成27年6月21日（日）国民宿舎海峡ビューしものせきにて開催されました。

* 海峡花火観賞会in下関医療センター *

前日の大雨で残暑が和らぎ、絶好の花火日和! ?となった8月13日。夕食後のひと時に患者さんご家族の方々が、三々五々東6病棟に集まって来られました。一番乗りは、浴衣姿のかわいい4歳のアキちゃん（写真、掲載許可頂いております）。入院中のご家族と共に最後まで観賞。今年は風の通りもよく、窓を開けての観賞で音も迫力満点。52名の方が楽しまれ、感想もいただきました。「ここ数年花火など見たことがなかったけど、病気のおかげで?、思いがけずええ思いができました。」（女性）「花火はやっぱり音がないと見た気がせん、迫力が違う。特等席でよう見れた。」（男性）今年で4回を数える院内花火観賞会、皆さんのひと夏の思い出作りとなりました。

サービス向上委員会 古本



* 今後の病院行事のご案内 *

下関医療センター健康フェア2015 10/24(土) 9:30~12:00 場所:下関医療センター附属介護老人保健施設1階

肝臓病教室【一般の方向け】 14:00~
健康管理センター 4階大ホール

10/23(金) 「もっと知りたい肝臓病食!」～肝臓病と食事～
講師:栄養治療部

11/27(金) 「もっと知りたい肝臓病薬!」～肝臓病薬の効果と副作用～
講師:薬剤科

12/25(金) 「もっと知りたい!」～疑問・質問にお答えします。～
講師:山下副院長

臨床栄養勉強会 知らなきヤソソ塾【医療従事者向け】 18:30~
11/19(木) 会場:下関医療センター

下関医療センター 馬肉医心 秋号 vol.7/2015

下関医療センター 広報誌

馬肉医心

ばかんいしん

vol.7
2015
秋号



【理 念】

最新の知識と医療レベルを駆使して、地域住民に誠心誠意奉仕します

【基本方針】

1. 病める人の立場に立ち全人的医療を実践します
2. 地域連携を推進し、地域に密着した医療を展開します
3. 良質・最新の医療を提供するため、日々の研鑽と人材育成に努めます

独立行政法人地域医療機能推進機構
下関医療センター

郵便番号750-0061 下関市上新地町3丁目3番8号
TEL.083-231-5811(代表) FAX.083-223-3077
TEL.083-231-7887(健康管理センター)
TEL.083-233-7850(介護老人保健施設)

I N D E X

- 糖尿病・内分泌内科のご紹介 P2~P3
- 「さくら会」よりみな様へ P4
- 海峡花火観賞会in下関医療センター 今後の病院行事のご案内

PHOTO/秋の気配

下関医療センター（旧下関厚生病院）における 糖尿病・内分泌内科の歴史

山口大学第三内科より常勤医師が派遣され、当院が関連病院となったのが、平成3年、西村学先生（現在宇部市でご開業）が初代で、次に赴任されたのが、現あやめ内科院長の綾目秀夫先生でした。綾目先生は、現在の当院の診療の基盤を築かれました。糖尿病・内分泌・血液内科として二足のわらじを履いて、日々の診療に追われていましたが、平成17年糖尿病・内分泌内科として独立し、平成26年、松永仁恵医師の派遣・増員により、充実した外来2診体制となりました。現在に至るまで20年以上の歴史を刻んで参りました。

他科との連携あってこそその糖尿病トータルケア

糖尿病合併症は多岐にわたり、眼科、泌尿器科、整形外科、消化器・循環器・脳神経科、歯科の充実のおかげで、合併症の管理が可能になります。手術患者を通しての、逆紹介も多く、周術期管理も担っています。院内での連携は非常に重要な要素となり、他科のお陰で、当科の専門性をより発揮出来ます。

当院における糖尿病教育入院の特徴

糖尿病診療では、食事・運動・薬物療法の三本柱が根幹をなし、療養継続の基礎は、患者教育です。教育なく治療をすすめる事はできません。多職種によるチーム医療は、当院の特徴であり、スタッフはどこに出しても恥ずかしくない高度なスキルを兼ね備えています。

教育入院刷新の礎となった糖尿病教室リニューアル

現在のチーム医療の礎となったのは、カンパセーションマップを利用した糖尿病教室です。少人数で開催しており、患者同士の会話が弾む形式です。和やかな雰囲気が進み、理解力に応じた指導を行います。熱心な患者さんはメモを取りながら、真剣に勉強されます。ここで、医師は有意義な患者情報をスタッフから得て診療に役立て、患者さんは主治医が教室での会話内容を把握していることに驚かれます、当たり前なことなのですが（笑）。



患者会：ふくの会の本格的な活動

患者会そのものは、平成7年より発足していましたが、会員もスタッフ中心で、10名足らずでしたが、平成23年より本格的に活動するようになりました。会長を1型糖尿病患者で16年のインスリン強化療法歴をお持ちの方にお願ひし、毎月、患者代表3名と当院スタッフでミーティングを行い、活動内容を決めています。患者会の運営は負担が大きいのですが、スタッフのモチベーション・アップに欠かせない要素になっています。



糖尿病フットケア外来の充実

糖尿病患者の足トラブル回避のため、これまで週に1回ペースで、ケア外来を開いてきましたが、患者の増加に伴い、スタッフを更に育成し、外来枠を増加しました。現在、毎週5名の患者の足ケアを行っております。

糖尿病透析予防指導の実績

専属の管理栄養士と透析看護認定看護師の協力のもと、毎月約30名の予防指導を行い、透析療法導入遅延に取り組んでおり、効果を上げています。患者にとっては、生活習慣の是正と取り組み維持を支えてもらえ、進行して透析療法導入時にも、指導に関わったスタッフが引き続き療養を支えるため、スムーズな導入受け入れができています。

24時間血糖モニタリング：CGMの導入

平成25年よりCGMを備え、入院患者はもちろん、外来患者へも拡大して、治療に役立つ有益な情報を得ています。特に1型糖尿病患者には、必須の検査と考えられ、1型患者さんからも「そんな検査があるんですか？」と驚かれ、ご自分の一日血糖の動きを知りたいという意欲を示されます。当院では、検査技師の協力のもと、行っております。

スタッフ紹介

医師だけでは糖尿病治療はできません。患者療養の面では、スタッフの活躍が9割を占めると実感します。下関ふくの会のユニフォームを着たスタッフと平成27年5月に下関で開催された日本糖尿病学会で停泊したパシフィックピーナス号での船上ビアパーティのひとコマです。

文責：野田 薫

